

その「いつか」は「あした」かも… 万が一の備えは大丈夫ですか？ 9月1日は「防災の日」

固危機管理課
☎内線244

1923 (大正12) 年9月1日、関東大震災が発生し、甚大な被害が発生しました。「防災の日」が制定されました。今年の1月1日には能登半島地震が発生し、近年地震や風水害等のリスクに備えるため、「防災の日」をきっかけに命を守るため

この日を忘れることなく、災害について認識を深め、備えを強化する日とするためでは線状降水帯などによる風水害など、激甚的な災害が発生しています。の取組みを始めましょう。

能登半島地震の教訓

個人備蓄できていますか？

能登半島地震では、多くの道路が寸断され、避難所の受け入れが困難を極めたほか、必要な支援物資がなかなか届けられないといった事態が発生しました。

そのため、災害時に必要な生活備蓄品はご自身で3日分、できれば1週間分の準備をしておきましょう。また、乳幼児や高齢者など、ご自身やご家庭の環境に合わせて必要な備蓄を進めましょう。

必要なものは自分で備蓄！

備蓄の例

【最低限必要なもの】

- 水
- 食料品
- 衣類等
- 衛生用品
- 日用品



など

【乳幼児に必要なもの】

- 粉ミルク、液体ミルク等
- 哺乳瓶
- 紙おむつ
- 肌着などの着替え



など

【高齢者に必要なもの】

- おかゆなどの柔らかい食品
- 薬、お薬手帳
- 大人用紙おむつ
- 肌着などの着替え



など

個人備蓄で災害関連死から命を守る

能登半島地震では、8月1日現在で全体の死者数339名の内、110名の方が災害関連死として認定されており、特にトイレの利用を控えることや水が不足することは、ストレスやエコノミークラス症候群を引き起こし、災害関連死につながるとも言われています。

いつ発生するか分からない災害に備え、「トイレ」や「水」の確保にも目を向けて、いま一度備蓄の内容を考えてみましょう。

トイレが不足すると…

トイレを我慢するために水分の摂取が減る

↓
血流悪化

エコノミークラス症候群
災害関連死にもつながる

簡易トイレや汚物袋などを、各家庭の人数に応じて備蓄を進めましょう！

備蓄の目安 人数×5回(1日)×7日分



水を確保するために

生活用水は防災指定井戸が利用可能 (飲料不可)

おいそ
オンラインマップ



▲防災指定井戸の確認はこちら



飲料水は主に給水車から確保

給水支援を受けるために…

各家庭で給水袋やポリタンクの備蓄を進めましょう！



町の備え

町では、災害が発生してから避難所生活に必要な数日分の食料や水、資機材などを備蓄しており、指定避難所である学校や大磯運動公園の防災拠点倉庫に保管しています。

また、大規模災害時には応急・復旧活動を行政だけで対応することは困難なため、様々な民間事業者などと食料や日用品の供給をはじめ、資機材の調達、人員の提供などの協力について協定を締結しています。

主な備蓄

食料：サバイバルフーズ (25年保存)



飲料水



組立てトイレ



蓄電池セット



生理用品



過去に発生した災害を忘れず、自分にできる備えを進めよう！



関東大震災の大磯駅の様子(大磯町郷土資料館提供)